

平成 28 年度の耐震化事業の結果について

平成 28 年度に実施した公共建築物の耐震化事業等の結果は次のとおりです。

1 公共建築物の耐震化事業の状況

(1) 耐震診断（庁舎管理事務）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1} 上部構造評点 ^{※2}	備考
旧図書館	御成町18番35号	0.09	・木造 ・平成29年度 実施設計予定

(2) 耐震改修設計

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}			備考
			Is値 ^{※3}	q値 ^{※3}	
鎌倉彫振興事業所	由比ガ浜三丁目 4番7号	診断時	0.48	1.93	・鉄骨造 ・平成29年度 耐震改修工事予定
		補強設計	0.77	3.09	

(3) 耐震改修工事（小学校施設整備事業）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}			備考
			Is値 ^{※3}	q値 ^{※3}	
深沢小学校 (給食棟)	梶原一丁目 11番1号	診断時	0.07	0.22	・鉄骨造 ・耐震改修完了
		改修後	0.78	1.67	
今泉小学校 (給食棟)	今泉二丁目 13番1号	診断時	0.21	0.66	・鉄骨造 ・耐震改修完了
		改修後	0.80	1.53	
玉縄小学校 (給食棟)	玉縄一丁目 860番地	診断時	0.32	0.99	・鉄骨造 ・耐震改修完了
		改修後	0.80	1.57	

※1 診断結果は、各階・各方向について算出した指標の最低値（建物の代表値）を掲載

※2 上部構造評点：木造建築物の耐震性能を表す指標

※3 Is 値：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の耐震性能を表す構造耐震指標（Seismic Index of Structure）

q 値：保有水平耐力に係る指標

2 耐震性能の指標について

(1) 上部構造評点とは

上部構造評点は、木造建築物の各階・各方向について、想定地震に対して必要な耐力と建築物が保有する耐力の比で表したものです。

上部構造評点が大きいくほど想定地震に対する安全性が高いと判断されます。

評点1.0が、建築基準法の求める大地震時性能を有しているかどうかの判定基準となり、1.0を下回れば、倒壊する可能性があります。

(2) Is 値・q 値とは

Is 値は建物の耐震性能を表す構造耐震指標 (Seismic Index of Structure) の略で、建物の構造部材の強度と粘りをもとに、形状や劣化を考慮して算出するもので、Is 値が大きいくほど、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性が高いと判断されます。

q 値は保有水性耐力に係る指標で、地震による水平方向の力に対する建物の強さを表すもので、q 値が大きいくほど耐震性能が高いと判断されます。

国の基準では、「Is (各階の構造耐震指標) が 0.6 以上の場合で、かつ、q (各階の保有水平耐力に係る指標) が 1.0 以上の場合、地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」とされています。